

3学年だより

～ 今週の言葉 ～

『 君たちはどう生きるか 』

吉野源三郎 著書名

令和 3年 1月 29日(金) 発行 第36号

卒業生に贈る～読書のすすめ～

現在、皆さんは時間を惜しんで受験勉強に取り組んでいることでしょうか、「ゆっくり読書…」といった時間や気持ちの余裕は生まれないかもしれません。しかし、落ち着いたらぜひ本を手にとってください。これから続く長い人生の中で「読書」という時間や活動はたいへん貴重です。

校長先生は学校のHP（ホームページ）でよく本や図書室のことを紹介なさっています。また、先日のHPには、芥川賞や直木賞を受賞した著者の話題が掲載されていました。

司書の八木先生が発行してくださる「図書館だより」も内容が充実していて読書意欲が刺激されます。一番最近発行されたものには「2020 全国公立高校入試出題図書紹介」という興味深い記事が掲載されていましたね。

全国的に見ても、朝の活動に「朝読」を取り入れている学校はたいへん多く、高校入試の面接で「今まで読んだ本の中で心に残っている作品は？」と聞かれることもあります。（ちなみに私は大学入試の面接で聞かれました）

若者の読書離れ・活字離れが進んでいると聞きますが、読書で得られることは多く大きく、人を豊かにします。

「文字を通せば、何年も前に生きてきた人と同じものを見れるんだ。（中略）そこにいながらにして、たいていのことはできてしまう。のび太はタイムマシンに乗って時代を超えて、どこでもドアで世界を回る。マゼランは船で、ライト兄弟は飛行機で新しい世界に飛んでいく。僕は本を開いてそれをする！！」

瀬尾まい子さんの『図書館の神様』という作品の一節ですが、見事に読書することの意義や喜びを言い当てているように思います。例えば、私たちは物語を読むことで、その中に生きている人の生き方や人生を体験することができます。また、これまで知らなかった世界に気づくことや触れることもできますし、ときには、自分の中に眠っていたさまざまな感情が揺り起こされ、ハッとすることもあるでしょう。本を開くことは新しい自分に出会うことでもあるのです。

大人になっていく皆さんに、吉野源三郎さん著『君たちはどう生きるか』という一冊を紹介します。この本は1937年、日本の軍国主義が勢力を強め日中戦争、そして太平洋戦争へと進む中で出版されました。主人公のコペル君がよい友達をもっている幸福感に包まれながらノートに書き綴った文章が心に残ります。

「僕はすべての人が互いによい友達であるような、そういう世の中が来なければいけないと思います。人間は今まで進歩してきたのですから、きっと今にそういう世の中に行き着くだろうと思います。そして、僕は、それに役立つような人間になりたいと思います。」

この言葉に託した作者の願いが胸に迫ります。皆さんは、どう生きるのでしょうか…。

そんなことをじっくりと考えるためにも、これからの人生の中で良き本と出会ってください。

♪ 今週の進路情報

2月4日（木）から県立高等学校前期選抜の出願が始まります。本校は、4日（木）と5日（金）に分けて出願します。9日（火）正午には出願が締め切られ、この時点での倍率が発表されます。

しかし、その数字に一喜一憂するのではなく、目の前にある自分の課題にひたむきに取り組んでいく姿勢が大事です。



こんな喜びの日を
心に描きながら…

♪ 来週の予定

1日(月)	15:50 頃下校	4日(木)	15:50 頃下校
2日(火)	15:50 頃下校	5日(金)	諸会費集金振替日 2・3月 14:50 頃下校
3日(水)	短縮・常任委員会⑥ 14:40 頃下校		